

ため池防災工事のための堤体対策工法選定マニュアル

研究のポイント

- ため池の周辺環境や立地条件を考慮し、工事施工の制約条件を踏まえた工法を合理的かつ効率的に選定するためのマニュアルです。

研究の背景

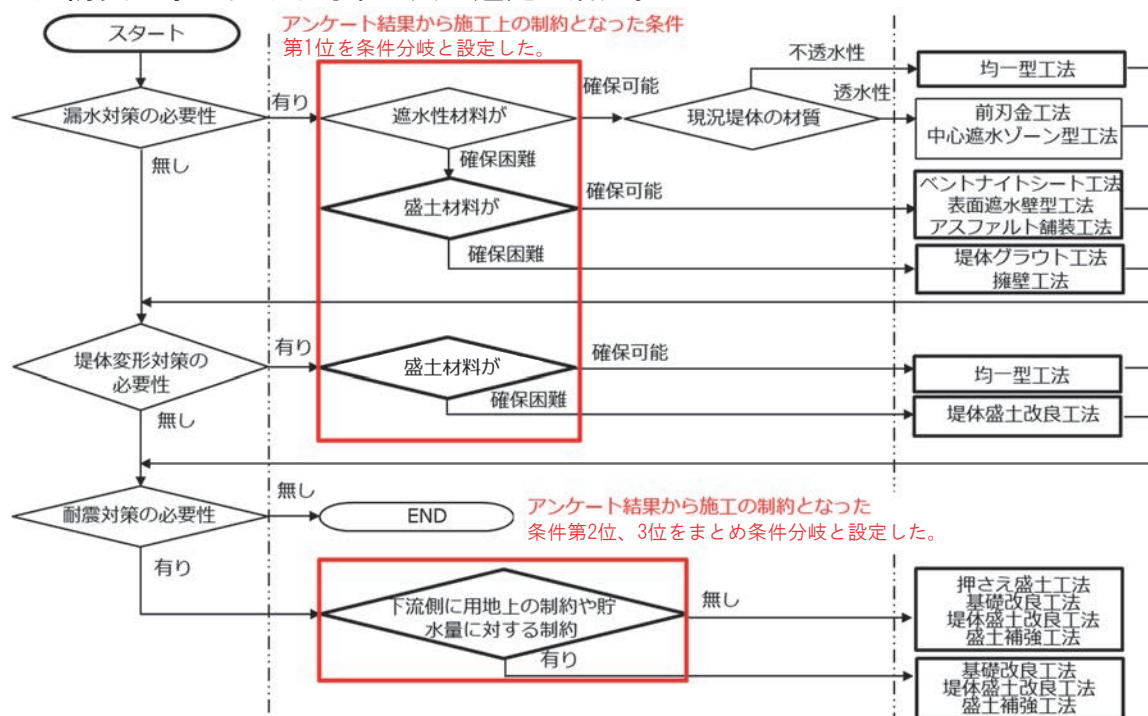
- ため池防災工事における対策工法の選定については、耐震性を確保した上で、ため池の周辺環境や立地条件による工事施工上の制約条件を考慮して、施工性や経済性を加味した総合的な評価によって、ため池ごとに検討されており、効率的な選定方法が求められていました。

マニュアルの特徴

- 本マニュアルは、工事施工の制約条件一覧、対策工法概要、対策工法選定フローおよび巻末資料として施工コスト表等を記載しています。
- 適用範囲は、堤高15m未満の防災重点農業用ため池です。
- 対策工法選定フローでは、全国の自治体のため池担当者に工事施工の制約条件や採用した対策工法について実施したアンケート結果を反映させ、改修の目的と工事施工の制約条件から、適した工法を選定することができます。

期待される活用例

- ため池防災工事における対策工法の選定に活用。



上記フローによって抽出される適した工法以外の工法が総合評価の結果、選定されることをさまたげるものではない。
施工中落水できない等の上記フローが適さない制約条件がある場合、矢板（鋼管）工法を含めて各種工法を検討する。
なお、改修前に漏水が発生していないため池について、耐震補強工法の採用により現況堤体の遮水性が損なわれる場合は、漏水対策工法の検討をする。